

地区委員会のスリム化

CLP の導入によって、クラブ委員会構成のスリム化を図ろうとするクラブが増えています。RI が推奨している委員会構成にとらわれずに、四大奉仕を尊重しつつ、不必要な委員会を思い切って統廃合して委員会構成をスリム化することによって、少ない人数によってクラブを活性化し、かつ費用の軽減を図ることができます。

CLP によってクラブ委員会構成のスリム化を図ると同様に、地区の委員会構成のスリム化を図ることも必要です。

地区委員会について RI は、規定情報委員会、ロータリー財団委員会、ロータリー地域社会共同隊小委員会、WCS 委員会、青少年活動委員会、青少年交換委員会、新世代委員会、地区社会奉仕委員会、地区親睦活動委員会を設置することを推奨していますが、本来、地区委員会構成は地区の規模や活動方針に基づいてガバナーが決めることになっています。しかし日本においてはどの地区も、前年度の地区委員会構成を踏襲する傾向が強く、ほぼ同じような構成になっているのが現実です

大規模な委員会構成をしている地区では、委員数が 200 人を超している例もあり、旅費や出務手当てを支給している地区では委員会を運営する費用もかなりの額になります。

会員数が減少し、地区資金の増額もままならない昨今の状況を考えれば、思い切って地区組織をスリム化する必要があります。

ある会合で、「昨年は職業奉仕委員を務めたお陰で、かなり職業奉仕について理解することができた。」という発言があり、これに対して、「地区の委員会は情報を各クラブに提供するために設置しているのであって、委員を教育するために設置しているわけではない。地区委員は各種セミナーや情報提供の場で、リーダーとしての役割を果たす実力を持っている少数精鋭の委員で構成すべきだ。」という意見が述べられました。

そう考えれば、クラブに情報を提供する委員会、すなわちクラブ奉仕委員会、職業奉仕委員会、社会奉仕委員会は地区セミナーを開催するための委員を担当幹事の役職で任命して、その幹事がパスト・ガバナー、元ガバナー補佐などの適任者に講師やリーダーを依頼してセミナーを開催すればいいことになります。

その一方でマンパワーを駆使して、クラブの実践活動の取りまとめや支援しなければならない、WCS、ロータリー財団、青少年活動(インターアクト、ローターアクト、ライラ、青少年交換など)は従来どおりの委員会に基づく活動をしなければなりません。

以上の点を勘案した地区組織は次の通りです。

常任委員会

委員長 小委員会

クラブ奉仕 担当幹事が代行

拡大・会員増強、広報・IT、委員会構成職業奉仕 担当
幹事が代行なし

社会奉仕 担当幹事が代行なし

国際奉仕 担当幹事が代行

WCS

ロータリー財団 パストガバナーより任命

財団プログラム(ポリオ・GSE)、奨学生・学友、財団寄付・地区補助金
米山奨学 米山奨学会理事が兼務 奨学生・学友、寄付新世代 一般会
員より任命

インターアクト、ローターアクト、ライラ、青少年交換研修委員会
地区研修リーダーが兼務

パストガバナー、パストガバナー補佐、適任の会員などで構成規定情報委員会
規定審議会代表議員が兼務

パストガバナー、パストガバナー補佐、適任の会員などで構成危機管理委員会
パストガバナーより任命

パストガバナー補佐、適任の会員などで構成

四大奉仕の委員長を廃止して、担当幹事がクラブに対する情報提供やセミナー開催の準備をします。セミナーの講師やパネリストは、ガバナーや地区研修リーダーと相談して決めればいいと思います。クラブ奉仕委員会には拡大・会員増強小委員会、広報 IT に関する小委員会を設置して、それぞれの業務を担当します。

ロータリー財団委員長はその職務内容の性格上、ロータリー財団のプログラムを熟知したパストガバナーを任命したほうがいいと思います。同様な趣旨から米山奨学委員長もパストガバナーである米山奨学会理事を兼務させることができます。

なお、国際奉仕委員会には WCS 小委員会を、ロータリー財団委員会には財団プログラム小委員会、奨学生・財団学友小委員会、財団寄付・地区補助金小委員会を、新世代委員会にはインターアクト小委員会、ローターアクト小委員会、ライラ小委員会、青少年交換小委員会などの現実にクラブに対する情報提供や実際活動を行うタスク・フォースとしての小委員会を設置する必要があると思います。

新世代委員長はそのプログラムを熟知した会員より任命し、研修委員長は地区研修リーダーが、規定情報委員長は規定審議会代表議員が兼務するのが効率的です。なお、最近その設置が強く推奨されている危機管理にはパストガバナーを中心とした委員会を設置す

る方が無難でしょう。

なお、慣習としてパストガバナーを地区委員会のアドバイザーやカエンセラーに任命するのではなく、やる気と能力のあるパストガバナーやパストガバナー補佐は実際活動に従事する委員長に任命することも考慮すべきだと思います。

上記の地区委員会構成では、委員長としてのパストガバナーが5名、一般会員が1名、委員会担当幹事が4名、委員として1小委員会の定員を5名とすると60名となり、少ない人数で地区運営ができることになります。

2007年10月29日